

**留学先国名** : 台湾

**留学先学校名** : 国立中興大学

**留学期間** : 平成 28 年 8 月 28 日 ~ 平成 29 年 5 月 28 日

この長いようで短かった 9 カ月間の留学で人生を豊かにしてくれる沢山の経験をすることが出来ました。

台湾へ留学しようと思ったきっかけは色々ありますが、一番に大学入学後から「マルチリンガルになりたい」と決め、大学在学中に沢山の言語を学びたいと考えていました。その中でも中国語は日本人にとって勉強しやすく、社会へ出てからも有用であると考えたからです。また台湾にした理由は、旅行などで訪れた際に台湾の人々が非常に友好的で気候も温暖であることから、楽しい留学生活が送れると考えたからです。私は台湾の中部に位置する台中市というところで 9 カ月間過ごしましたが、期待通り現地の方々には非常に友好的で、気候に関しても晴れの日が多くとても過ごしやすかったです。

留学中はずっと大学内の語学センターへ通っていました。授業は午前から始まり、朝起きてバスに乗って学校へ向かいます。日本で公共交通機関を利用して通学する際に起こる問題と言えば、満員電車や遅延が思い浮かぶと思います。台湾で電車と言えば週末に都市から都市へ移動する目的で使われることが多く電車はあまりメジャーな通勤手段ではありません。そのかわり通勤の主な手段はバイクかバスか、台北市や高雄市なら地下鉄です。私はバスで通学していましたが満員電車の代わりにある問題に毎日悩まされました。それはバスが時刻表通りに来ないことです。時刻表通りに来ないことは想定内の範囲内ですが、時刻表が何の前触れもなくしょっちゅう変わるので、そのためいつもは大体 15 分から 20 分間隔で来ると予想されるバスを 40 分待ったことも何度かありました。しかし私がここで強調したいのは苦勞したということではなく、そのことから柔軟性を学んだということです。日本では「来るはず」の電車やバスはほとんど来ます。私はその論理を海外でも適用していたから 40 分も待たされたのです。つまり「来るはず」と考えるのではなく「来ないもの」と考える発想の転換が必要だったのです。そしてここは海外なのだから「ここではこうなんだ」と受け入れる姿勢が必要だったのです。「来ないもの」だと考えれば第一にストレスを感じなくなりますし、時間通りに来た際には感謝の気持ちさえ感じることもできます。そして第二に学校までたどり着ける他のルートを考える必要性にも気づくことができます。発想を転換する前はこれが最短で最速のルートだからとほかのルートを考えていなかったのです。ここで発想を転換し、自分の習慣とは異なる価値観や習慣を受け入れる姿勢を持ったことをきっかけに、他の事でも発想を転換し柔軟に対応することを心掛け続け、その結果、私の留学生活は成功したと呼べるほど充実したものになりました。そしてかけがえのない友人を得ることができました。

クラスには南米・東南アジア・ヨーロッパ・アメリカなど、本当に様々な地域からきたクラスメイトがいました。授業の中では自国について発表する機会やペアワークもあったことから中国語以外にも様々なことが学べ、とても有意義でした。中でもパラオ人とグアテマラ人のお話は非常に衝撃的で、どちらも日本では中々出

会えないのでいい経験になりました。また台湾は東南アジア諸国から労働力を積極的に受け入れている関係で語学センターにも東南アジア出身の方が多く、特にベトナムについて沢山の話を聞くことが出来ました。これまでは東南アジアのそれぞれの国にこれといったイメージは無かったのですが、話を聞く中でイメージが膨らみました。クラスメイトの中には表現がストレートすぎる人や、空気の読めない発言の多い人もいました。しかし先程述べたように私は「発想の転換」と「受け入れる姿勢」つまり具体的には「それはここでは普通の事」、「それは相手にとっては普通の事」と捉える姿勢を学びました。それに加えて、相手は悪意をもってしていることではないことがほとんどです。そのため相手にストレートにものを言われても気になりませんでしたし、空気が読めないのも「仕方ない、この人はこういう性格なのだ」と軽く受け止めるようにしました。その結果、こういったクラスメイトとも親睦を深めることが出来ました。中には放課後に一緒に勉強したり、料理をしたり、お泊り会をしたり、旅行に行ったりする友達もでき、その友人たちとは私の帰国後もずっと連絡を取り合っています。価値観を超えて友情を築けたことは、とても自信になりました。

台湾に長期滞在していて際に沢山の出来事がありました。放課後に学校近くの健康ランドのようなプールによく行っていたのですが、そこには円形のジャグジーバスやサウナがあります。このジャグジーバスやサウナに入っている時によく年配の方々に話しかけられました。中国語の練習にもなりますし、また台湾人は中国語に加え台湾語も話すので何を話しているか全くわからないこともあり、台湾が多言語社会であることを実感しました。夏にはよく台風が上陸するのですが、大阪に台風が上陸するのとはわけが違って、一度上陸すると大木が丸裸になるほどの強風が吹きつけ、建設現場の足場が吹っ飛ばすなど本当に危険なのです。そのため大きい台風が上陸する時は前日にテレビで「明日は休校、休業」だと表示され、そこで休校になることが確認できます。また先ほども述べたように台湾には東南アジアの方が多くおり、中でも台中には沢山の方がいます。そのため台湾に居ながらにして本格的な東南アジアの料理を食べることができます。スポーツセンターへ何度か行っていたのですが、そこで日本人の駐在員の方や日本から出張で来られている人に会いました。日本で学生生活をしていると駐在員の方や出張経験のある人と交流する機会があまりなかったもので、これもよい経験になりました。

最後に、準備してよかったこと、現地で取り組んでよかったことなどを書こうと思います。1 つ目は目標を明確にして勉強する事です。私は留学終了までに上級まで中国語を習得するという目標を立て、それを中国語の先生にも公表しました。特に先生に公表したことは自分のモチベーションを保つために非常に有効でした。語学センターでは 1 学期 1 レベルを履修することができ最終的に 3 学期分在籍したのですが、飛び級をしたことから 4 つのレベル分の内容を習得し、上級まで勉強することが出来ました。2 つ目は英語をある程度話せるようにしておくということです。語学センターで勉強を始めるにあたって、授業が英語中心で行われますし、クラスメイト同士が初めは中国語でコミュニケーションをとるのは難しく、アジア人と欧米人では習得のスピードが異なることから勉強が進んでいっても欧米から来られた人と中国語で会話をするのが難しいことがしばしばあります。そのため留学が始まった段階で英語が話せるか話せないかで今後の充実度が大きく変わります。初対面の時に相手に英語が話せることを印象づけなければ、欧米出身の方と交流する機会が圧倒的に減ってしまうのです。あまり自信がなくても積極的に英語を話すことをお勧めします。3 つ目は、現地の人や他の外国人との出会いのきっかけはどこにあるかわかりません、意外なところにあたりするので積極的に様々な事に挑戦してみる事です。特に台湾は比較的物価が安いので日本で

は挑戦できないことにも挑戦することが出来ます。私の場合はボルダリングに挑戦し、そこで台湾人や日本人や他の外国人と交際関係を広げるきっかけが出来ました。また治安が比較的良く、電車やバスが便利なので積極的に出かけることもお勧めします。1人で近隣の都市へ旅行に行くことがありましたが、現地の人非常に親切にしてくれ、期待よりも良い旅行が出来ました。これから留学に行かれる皆さんにも参考にさせていただけると幸いです。